

連結決算ハイライト

当上半期は、欧米では金融政策が緩和傾向にあるものの、地政学リスクもあり景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

国内では、本年4月に施行された医師の働き方改革および本年6月の診療報酬改定を受け、各医療機関はタスクシフトや業務の効率化に取り組む一方、医療従事者の確保が課題となり、厳しい経営環境となりました。海外では、中国において反腐敗運動や景気減速の影響により医療機器の設備投資に慎重な姿勢が続いたものの、米国においては検査・手術件数の増加に伴い病院経営に改善傾向が見られました。国内外ともに、医療機関における医療の質向上と効率化が急務であり、データヘルス、遠隔医療、AI、ICTの活用など医療DXが推進されました。

当上半期の売上高は前年同期比0.7%減の1,027億8千4百万円となりました。利益面では、減収に加え、人員の増強および賃上げ対応に伴う販管費の増加により、営業利益は前年同期比31.7%減の51億1千4百万円となりました。経常利益は、為替差損益が差損に転じたことから、前年同期比82.9%減の21億3千9百万円となりました。また、中国での医療機器の需要低迷に伴い、上海光電医用電子儀器(有)の事業再編費用等の特別損失を計上したことから、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比94.2%減の4億6千3百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前年同期比0.8%増の662億4千3百万円となりました。市場別の取り組みを強化するとともに、医療安全、診療実績、業務効率につながる顧客価値提案を推進し、増収を確保することが出来ました。ITシステムは大口商談の受注もあり好調だった前年同期から反動減となった一方、注力している消耗品・サービス事業の売上が伸びました。大学、私立病院市場は前年同期実績を下回りましたが、官公立病院、診療所市場が堅調に推移しました。PAD市場^{*1}でAEDの販売も好調でした。

<海外市場>

海外売上高は前年同期比3.4%減の365億4千1百万円となりました。前年同期の米国子会社再編に伴うデフィブテック LLCの決算期変更の影響^{*2}に加え、中国を中心にアジア州他が低調だったことから、減収となりました。地域別では、北米で増収となったほか、中南米も好調に推移しました。欧州、アジア州他は前年同期実績を下回りました。

^{*1} PAD (Public Access Defibrillation) : 一般市民によるAEDを用いた除細動。PAD市場には公共施設や学校、民間企業などが含まれる。

^{*2} 2前期において、米国子会社再編に伴い、デフィブテック LLCの決算日を12月31日から3月31日に変更しています。前中間連結累計期間は、2023年1月1日から2023年9月30日までの9か月決算を連結しています。

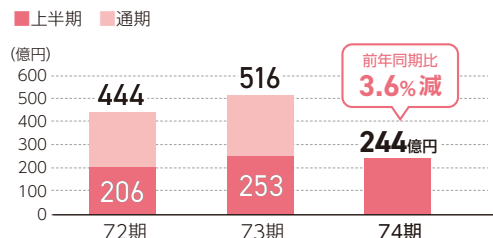
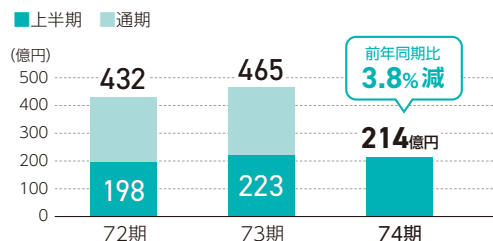
商品群別の概況 (連結)

① 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品(記録紙、電極、電極カテーテルなど)、保守サービスなど

国内 診断情報システムが大幅増収となった前年同期からの反動減となりました。脳神経系群は二桁成長となり、心電計群も好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群は堅調でした。

海外 脳神経系群、心電計群ともに、中国を中心にアジア州他で減収となりました。



③ 治療機器

除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカー、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品(電極パッド、バッテリー、アブレーションカテーテルなど)、保守サービスなど

国内 AEDは更新需要が回復、消耗品も好調に推移し、二桁成長となりました。除細動器も消防機関での更新商談の受注により好調に推移しました。人工呼吸器は消耗品・サービスが前年同期を上回りました。

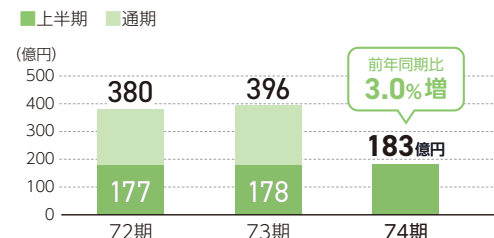
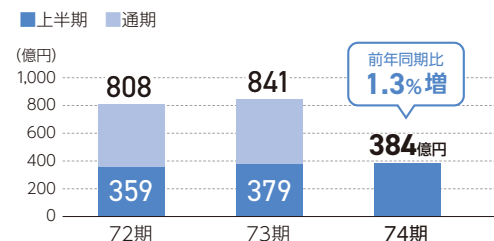
海外 AEDが決算期変更の影響に加え、各地域の代理店での在庫調整もあり、減収となりました。人工呼吸器は北米、アジア州他で大幅増収となりました。除細動器は中南米、欧州で前年同期を上回りました。

② 生体情報モニタ

セントラルモニタ、ベッドサイドモニタ、バイタルサインテレメータ、臨床情報システム、関連の消耗品(電極、センサなど)、保守サービスなど

国内 臨床情報システムが大幅増収となった前年同期からの反動減となりました。ベッドサイドモニタも減収でした。一方、医用テレメータ、送信機は好調に推移しました。

海外 北米、中南米、欧州で二桁成長となりました。アジア州他では、前年同期に好調だった中国を中心に減収となりました。

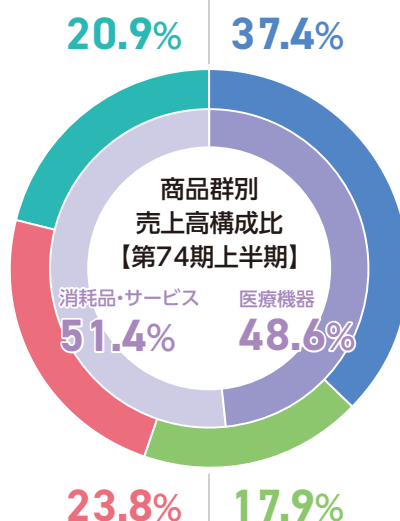


④ その他

血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、消耗品(試薬、衛生用品など)、設置工事・保守サービスなど

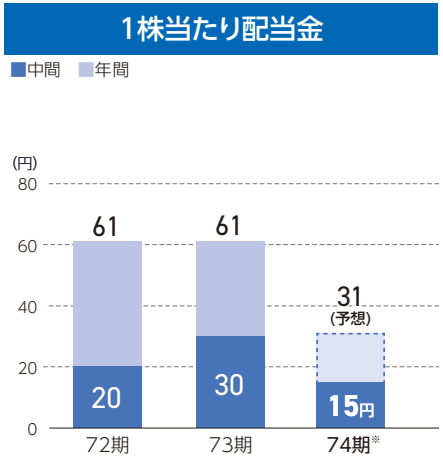
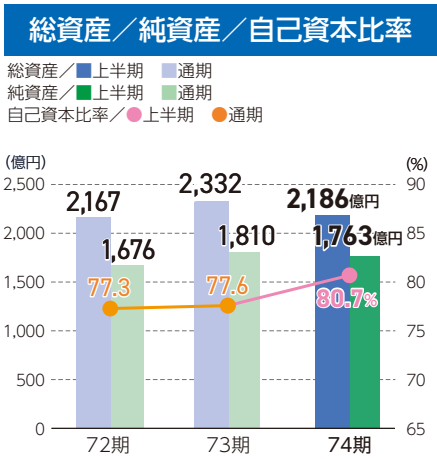
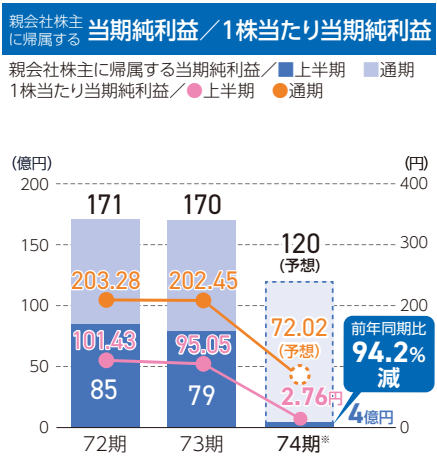
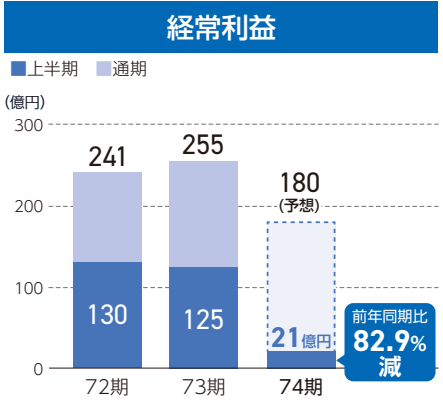
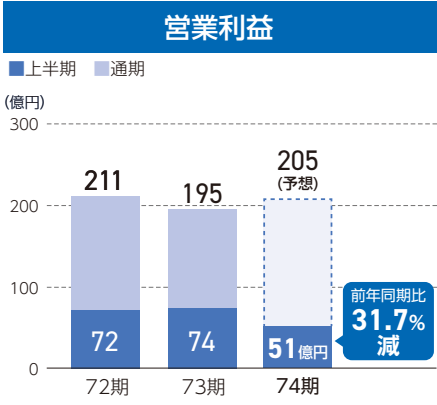
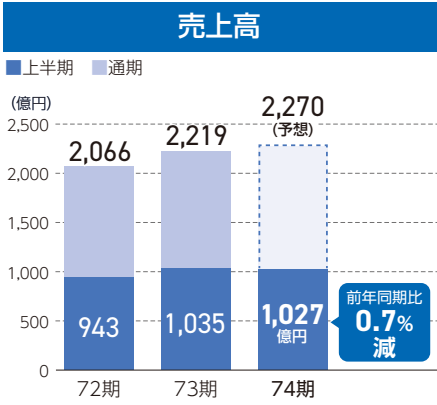
国内 自社品販売の注力により、現地仕入品が減収となりました。医療機器の保守サービスは好調に推移し、検体検査装置・試薬も堅調でした。

海外 検体検査装置・試薬が、欧州、中南米で二桁成長となりました。



上半期連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



※ 当社は、2024年7月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。
第74期の「1株当たり当期純利益」「1株当たり年間配当金」(予想)につきましては、当該株式分割を考慮した額を記載しています。

利益配分に関する考え方

利益の配分につきましては、健全な財務基盤を確保した上で、将来の企業成長に向けた投資と株主還元の実現を図ることを基本方針としています。優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人材育成など将来の企業成長に向けた投資、②株主還元としています。株主還元の目標は「連結総還元性向35%以上」としています。株主還元については、業績の伸長に応じて安定的な増配を行うとともに、自己株式の取得は、今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に実施します。

地域別の概況 (連結)

北米では、AEDは減収となったものの、生体情報モニタ、人工呼吸器が好調に推移しました。中南米も、メキシコ、ブラジルを中心に二桁成長となりました。欧州では、ドイツ、トルコは増収となりましたが、オランダ、イギリスを中心にAEDが減収となり、前年同期実績を下回りました。アジア州他では、中国、中近東・アフリカが好調だった前年同期実績を下回ったことから、減収となりました。

